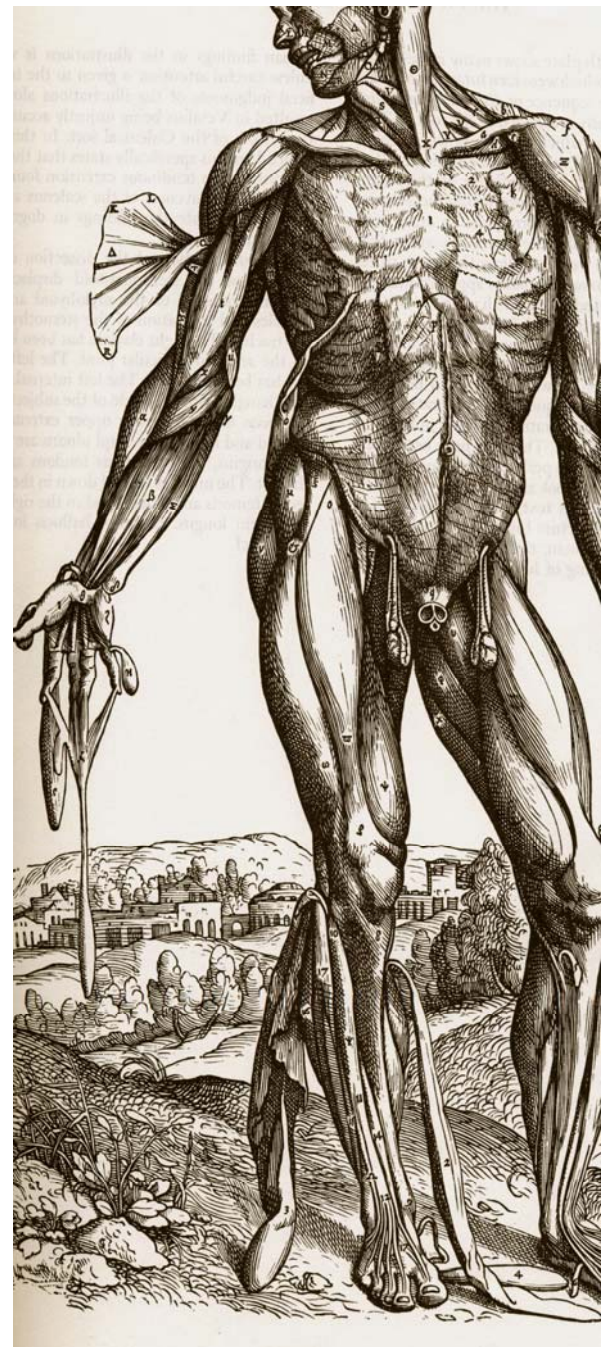
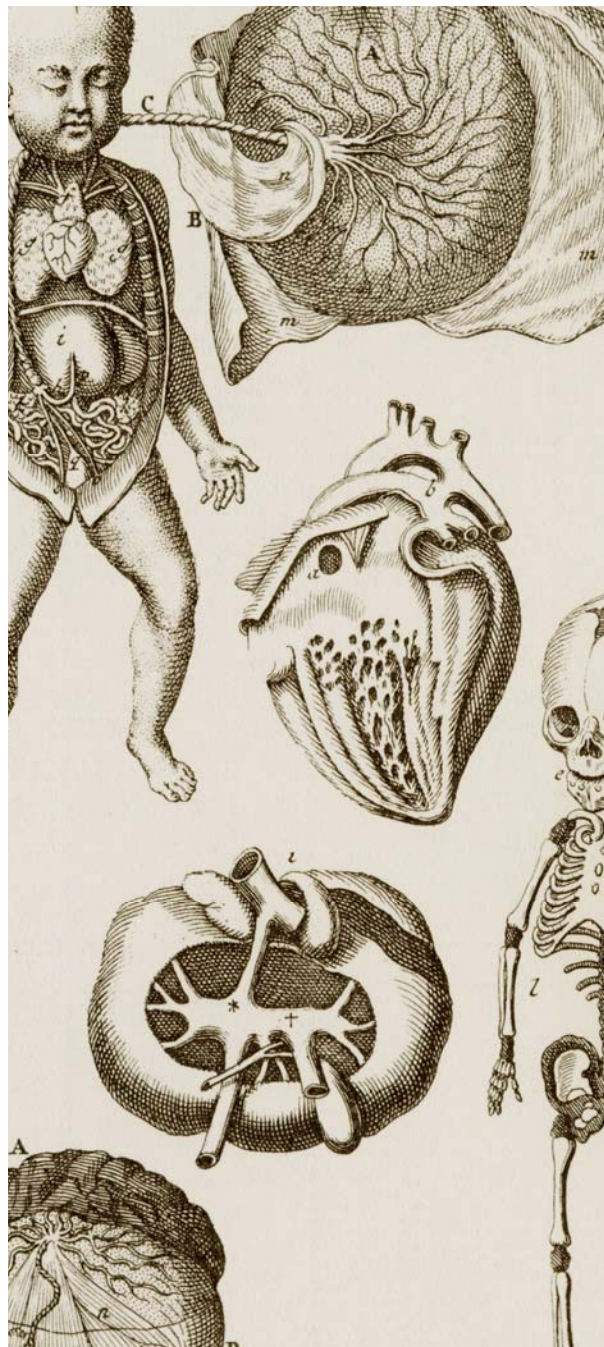


大分大学附属図書館 医学分館 解剖図譜展



日本歯科大学新潟生命歯学部所蔵の
医学古書9点を展示します

(杵築藩医 佐野家の文書 263点も常設展示しております)

6月25日(月)~7月6日(金)

■10:00~17:00 (入場16:30)

■医学分館医学史資料室

※施錠しておりますので閲覧の際はカウンターへお声かけください

『校正 小学人体問答』 こうせいしょうがくじんたいもんどう

明治九年（一八八六） 全二編

明治前期の衛生啓蒙書。上田文齋著。問答形式の解剖学書。「動静血脈循環」などの挿絵入り。

『改正 小学人体問答』 かいせいしょうがくじんたいもんどう

明治十一年（一八八八）

明治前期の衛生啓蒙書。中里亮著。下等小学校第七級の生徒に教えるために作られた書物。著名な内外各部の名称と五官の功用の概略が書かれている。幅図つき。

『全体新論』 ぜんたいしんろん

安政四年（一八五七）

明治前期の衛生啓蒙書。十八論からなる。身体各論、全身骨体論、面骨論、脊骨脇骨等論、手骨論、尻骨盤及足骨論、肌肉功用論、腦為全体之主論、眼官部位論、眼官妙用論、耳官妙用論、手鼻口官論、臟腑功用論、胃經、小腸經、大腸經、肝經、膽論。「心經衆管図」などの図入り。

『心臓図』 しんぞうず

明治九年（一八八六）

さまざまな角度から見た心臓の図からなる。それぞれの図に、各部位のドイツ語を併記。

『解体新書』 かいたいしんしょ

復刻版

安永三年（一七七四）刊行。杉田玄白著。ドイツ人医師クルムスの医学書“Anatomische Tabellen”のオランダ語訳『ターヘル・アナトミア』（ONTLEEKUNDIGE TAFELN）を江戸時代の日本で翻訳した書。内容は漢文で書かれている。書の構成は、以下のとおり。

- 序図
- 巻の一 総論、形態・名称、からだの要素、骨格・関節総論、骨格・関節各論
- 巻の二 頭、口、脳・神経、眼、耳、鼻、舌
- 巻の三 胸・隔膜、肺、心臓、動脈、静脈、門脈、腹、腸・胃、腸間膜・乳糜管、
脾臓
- 巻の四 脾臓、肝臓・胆嚢、腎臓・膀胱、生殖器、妊娠、筋肉

（ウィキペディア参照）

『解体新書序図』 かいたいしんしょじよず

復刻版

『解体新書』の序図のみ複製し、刊行されたもの。『解体新書』はよく知られているが、その解剖図を見るチャンスはほとんどないため、視覚的教材として刊行された。

『ONTLEEDKUNDIGE TAFELN』(ターヘルアナトミア)

復刻版

1734年出版。ドイツのクルムス (Johann Adam Kulmus) が1722年に著した『解剖図譜』(Anatomische Tabellen)を、ライデンのディクテン (Gerardus DICTEN) がオランダ語訳したもの。

杉田玄白らは、この第二版に依拠した。内容は、簡単な本文とやや詳しい注記からなり、27枚の図譜を付した初学者向けの医書である。

『THE ILLUSTRATIONS FROM THE WORKS OF ANDREAS VESALIUS OF BRUSSELS』(Vesalius 図版集)

復刻版

解剖学の権威、ベサリウス (Andreas Vesalius, 1514-1564) が著した『人体の構造についての七つの書』(De humani corporis fabrica 略して『ファブリカ』と呼ばれる)を編集したもの。筋肉の図は、ベサリウスが描いたといわれている。

ベサリウスはガレノスの書について、人体では間違っている、サルについては正しいことに気がついた。そこで、ベサリウスは彼自身の解剖所見に基づき、作りうる最良の図を載せた人体解剖学の新しい本を作ろうと決心したのである。

この本は大きな成功を収め、人々は初めて美しく正確な図によって人間自身の体の構造を見ることができるようになった。しかし、当時はガレノスの書を信じている人が多かったため、ベサリウスは苛烈な批判にさらされた。その結果、彼は解剖学を断念したが、後年になって彼の著書はその真価を認められた。『ファブリカ』の出版によって、医学は近世に入ったといえる。

(ブリタニカ国際大百科事典参照)

『The Anatomical Plates of Pietro da Cortona』

(Pietro da Cortona 図版集)

復刻版

ピエトロ・ダ・コルトーナ (1596-1669)が描いた図版を集録したもの。Vesalius 図版集と同じく、解剖図が自然なポーズをとっており、西洋的特色が出ている。

人物を具体的な状況に置きながら、身体のできるだけ多くの面を示そうとしている。手法として人物が持つ臓器、鏡、絵画などを用いている。(九州大学医学部附属図書館 HP より引用)

コルトーナはバロック期のイタリアの画家、建築家。イタリアの盛期バロック期を代表する美術家である。

(ウィキペディアより一部抜粋)